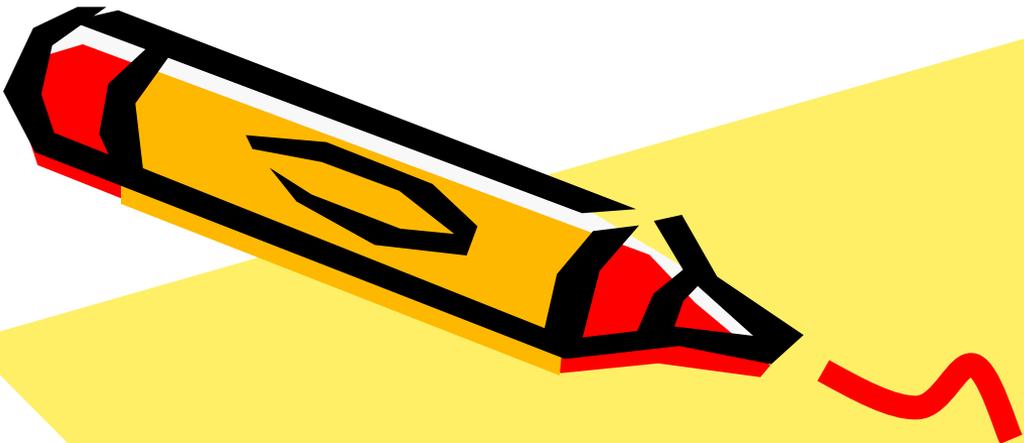


2022.9.28

こどもの理解と相談支援



こどもの理解と相談支援 (第1回: 第1章～第4章)



聖和学園短期大学 保育学科
准教授 山本 信

シラバスの確認



授業科目名	単位数	学習形態
こどもの理解と相談支援	2単位	レポート・科目試験

授業のテーマ及び学習成果

こどもを理解するために、乳幼児の発達及び学び並びにその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理について学びます。また、その対応の一つの幼児教育（保育）現場における相談支援を学び、こどもが自己理解を深め、好ましい人間関係を築き、集団の中で適応的に生活する力を育むことを支援できることを目指します。そのために、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動の在り方について、こどもの発達の状況に即した支援ができるよう、心理的特質や教育的課題を捉える力を身につけるとともに、本人またはその親や保育者などに助言、指導、そして場合によってはカウンセリングを行えるようになることを目指します。この授業では、より良い教育の方向を求めて指導助言ができる基礎理論と実際について学びます。

《学習成果》

レポート：幼児教育の課題と家庭との連携の在り方、心理アセスメントの活用について理解できるようになる。

科目試験：カウンセリングの基本と心理アセスメントの活用、保・幼・小及び家庭との連携が理解できるようになる。

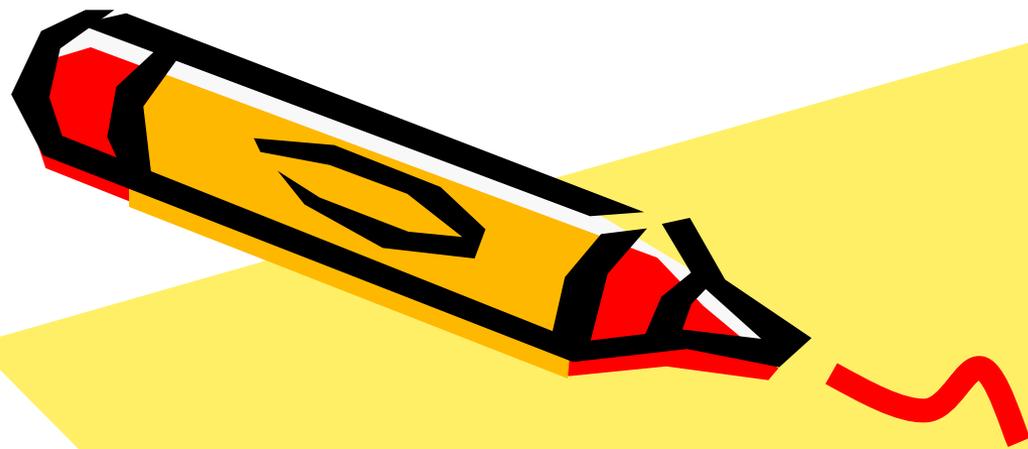
授業の概要

相談支援の究極的な目的は、こどもの人間形成、人格形成にある。幼児、児童、生徒を対象にした現場における相談支援に重点を置き、発達と成長の基礎理論、生活指導、しつけ、学習適応等について学ぶ。また、カウンセリングの基本的態度や技法について学び、様々な心理アセスメントの内容・活用について理解を深める。



授業計画

- 1 子どもの実態に応じた発達や学びの把握
- 2 相談支援の基本
- 3 こどもを理解する視点①
- 4 こどもを理解する視点②
- 5 こどもを理解する方法①
- 6 こどもを理解する方法②
- 7 こどもを理解する方法③
- 8 こどもの自己理解を進める技法
- 9 幼児・子ども理解とカウンセリング・マインド
- 10 幼稚園・保育園における園児への心理的援助
- 11 小学校における児童への心理的援助および
その保護者との相談支援
- 12 相談支援の実際①
- 13 相談支援の実際②
- 14 相談支援と家庭・学校・地域との連携と相談支援
- 15 相談支援の課題と対応



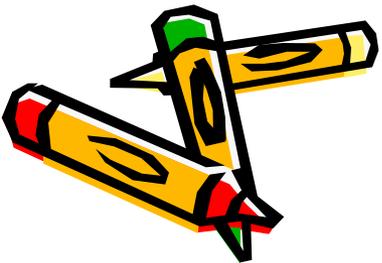
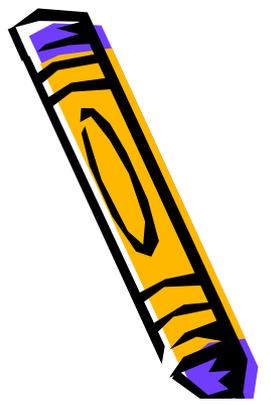
第1章

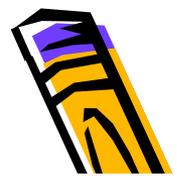
子どもの実態に応じた発達 や学びの把握



第1章のポイント

- 子ども理解の意義
- 養護保育の一体的展開
- 幼児理解を深める教師の基礎的な態度





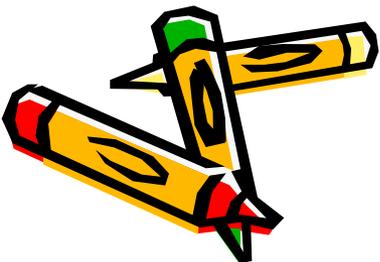
第1節 子ども理解とは

- 「気持ちやこころを理解する」とは？
→ どうしたら「こころ」を理解することができるか
- 「寄り添う」とは？
→ 「何」に寄り添うのか
- 「安心して過ごせる場」とは？
→ 「安心できる場」と「安心できない場」の違い
- 「子ども一人一人を理解する」とは？
→ 具体的に「何を」理解するか
- 「子どもの内面」はどのように理解するか？
- 子どものこころに「届く」と「届かない」の違いは？
- 「こころを育てる」とは？

第2節 養護と教育の一体的展開



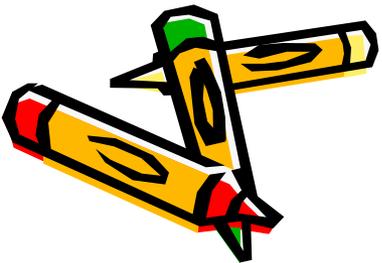
- 「乳幼児期にふさわしい経験」とは？
→ 「5領域」の内容とねらい
- 「保育士等への信頼」とは？
→ 「信頼している」とは、どのような状態か
- 「個性豊か」とは？



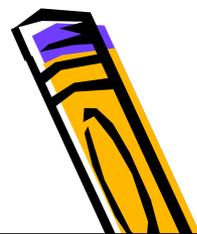
第3節 保育士・幼稚園教諭・小学校教諭 に必要な資質・力量とは



- 「人間性を豊かにする」とは？
 - 「人間性」は具体的に何を指すか
 - それを具体的に、どう「豊かにする」のか

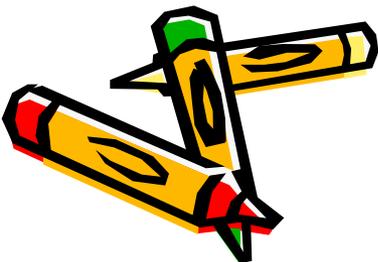


オープンマインド

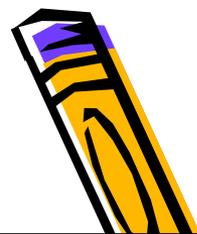


固定概念にしばられずに他者を認め、自分についても正直に表現できる「開かれたところの姿勢」

- 他者の**存在価値**を認め**安心感**を与えること
- 他者の**否定も受け入れ受容感**を与えること
- 他者の話す内容に同意できなくても**話し手を否定しない**こと

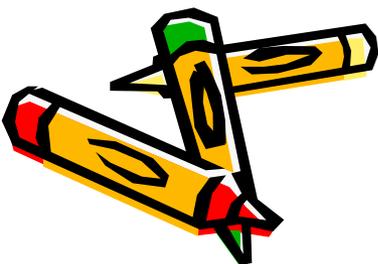


傾聴



表面上の言葉だけでなく、その時の表情、しぐさなどにも注意しながら、語られない言葉も感じ取る

- 受容的、共感的な態度で真摯に傾聴する
- 聞く姿勢一つで相手の捉え方が変容する
- 子どもや保護者との良好な関係につながる
- 「傾聴のスキル」とは？



カウンセリング・マインド



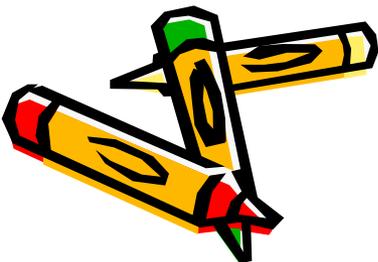
カウンセリング:

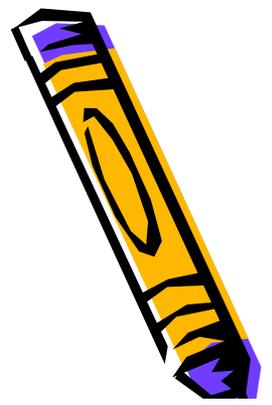
言語的および非言語的コミュニケーションをとおして、行動の変容を試みる人間関係

カウンセリング・マインド(ロジャーズ):

「受容」、「共感」、「自己一致」

- 「受容」=「ほめる」?
- 「共感している」とは、どのような状態のこと?
- 「誠実にクライアントに向き合う」ために…

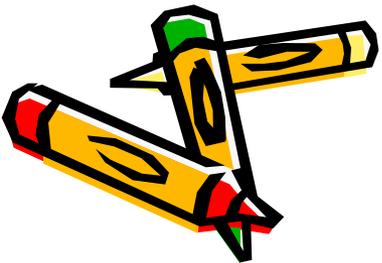




- 「他者の枠組みから物事を捉える」とは？

- どのような「力」が必要か

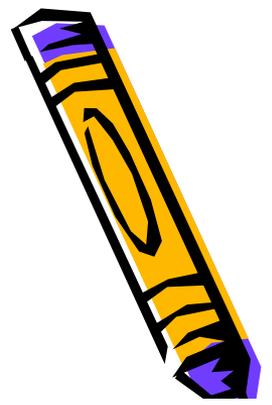
- 子どもは大人と同じようにできるのか



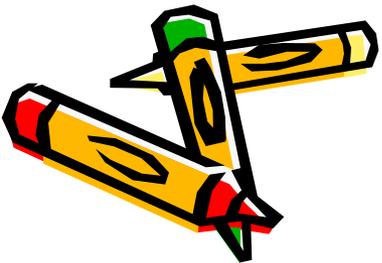


第2章
相談支援の基本について

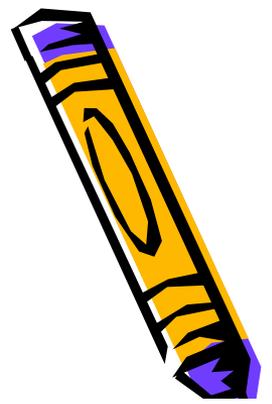
第2章のポイント



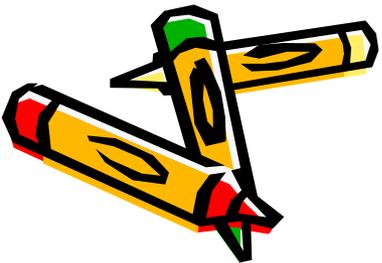
- 相談支援の基本
- カウンセリングの基本（意義・理論）
- カウンセリングの基本的な方法（受容的態度、共感、傾聴）



第1節 相談支援とは



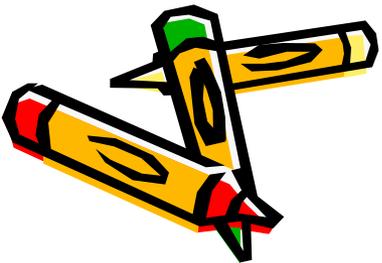
- 「入所していない子育て家庭を含めた地域の保護者の支援」のイメージを考えてみましょう



第2節 保育・教育現場でのソーシャルワークの必要性



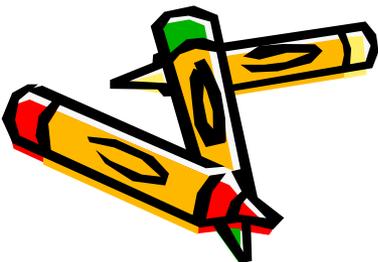
- 「子どもを取り巻く環境が複雑になっている」とは、何が「複雑に」なっているのだろうか
- 「今」と「昔」は何が違うのか



第3節 カウンセリング技法の基本

カウンセリング

心理的な問題や悩みを抱えているクライアントに対して、支援するカウンセラーが、面接によって信頼関係を築きながら、クライアントの精神的な成長を支え、納得した自己決定により、行動に移せるような心理的支援。



カウンセリングの3技法

傾聴・受容・共感的理解

受容的態度で接するための技法

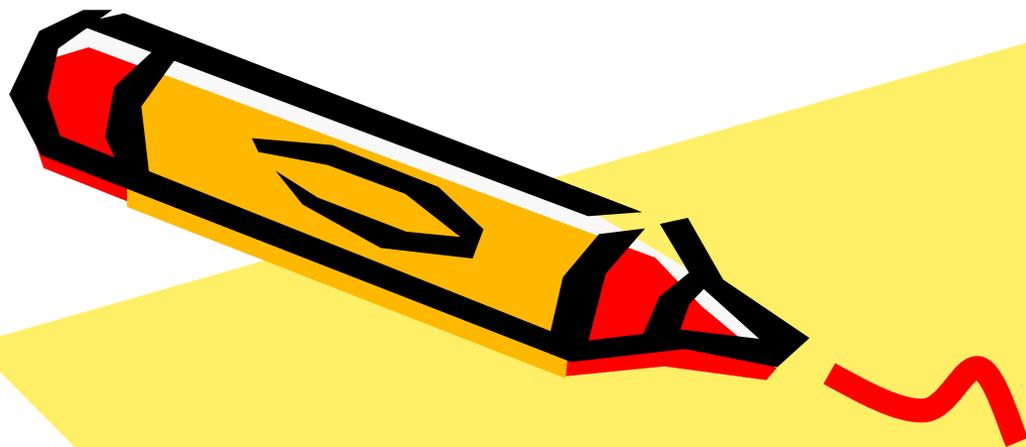
傾聴・受容・明確化・自己解決を促す・つながる言葉かけ・繰り返し・感情の伝え返し・質問

「いつでも・どこでも・だれでも」

目の前にいる子どもたちすべてが対象

- 自分が(普段の生活で)よく使っている「技法」はありますか？





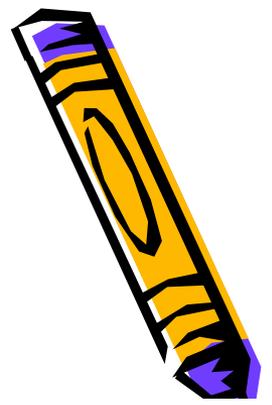
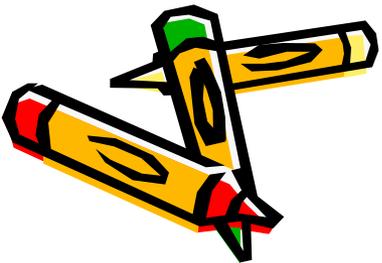
第3章

子どもを理解する視点①



第3章のポイント

- 子どもの生活や遊び
- 保育の人的環境
- 子ども相互の関わり
- 集団における経験

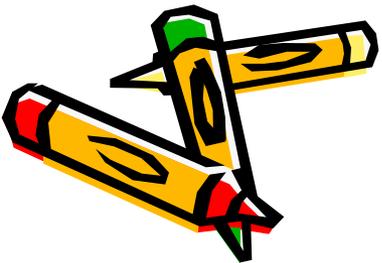


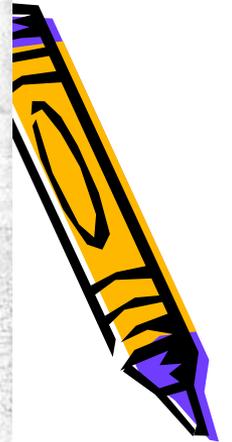


第1節 変化する社会環境



- 「今」と「昔」、何が「変わった」のか
- その「変化」に対して、保育者に「何が求められる」のか





スマホを使う子ども 子育ての中でスマホ を使う親



スマホ(たとえば動画)と 絵本との違いはあるか？ あるとしたら何か？

記事とはさみは 使いよう

7

「1日6・1時間」は、何の数字でしょう。これは、「女子高校生の1日のスマートフォン平均使用時間」(デジタルアーツ2019年調べ)です。1日6・1時間なら1年間365日では2226・5時間になり

ます。小・中学校で1年間に学習する総時数は、ともに1015単位時間です。小学校は1単位時間が45分、中学校が50分ですから、時間に換算すると、1年間で小学校は761・25時間、中学校は821時間になります。2226・5時間をそれぞれで割ると、小学校の2・9倍、中学校の2・7倍となります。つまり、平均的な女子高校生は、小中学生が1年間に学校で勉強するおおよそ3倍の時間スマホを使っていくことになるのです。

この調査は数年にわたリ継続して行ったため、次のような結果も出ました。スマートフォンを使っても特に悪い影響がなければ良いのですが、それはいきません。仙台市教育委員会が7万人の小中学生を対象に行った学力調査(仙台市標準学力検査2013年)では、平均正答率とスマホアプリの使用時間の負の相関が明らか。小・中学校ともに、スマホの使用時間が長いほど平均正答率が低くなるのです。驚くのは、家で勉強していない子どもでスマホを持つていない子どもの平均の方が、家で2時間以上勉強するがスマホを2〜3時間使用する子どもの平均を上回ったことです。勉強した成果は消えてしまうのかもしれない。

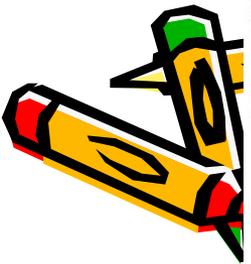
スマホ時間減らし読書を

スマホを使っていなかった子どもがスマホを使い出すと成績は急降下。また、スマホを使っていた子どもがスマホをやめると成績は徐々に上昇するというのです。この調査では、スマホの使用時間を1時間未満にすれば学力への悪影響が少ないことも明らかになっていますが、1時間未満に抑えるのは至難の業です。そこで現実的な方法を提案します。

せめて1日30分間スマホの使用時間を削り、その分を本や新聞を読むことにするのはいかがでしょうか。あえて「新聞」を入れたのは訳があります。文学だけの読書では、学力には十分につながらないのです。その理由は次回に。

(日本新聞協会NIEコーディネーター 関口修司)
次回回は2月4日

せきぐち・しゅうじさん
1955年東京生まれ。
東京学芸大を卒業後、東京都公立小学校教員として勤務。その間(91〜2007年)、群馬大教育学部非常勤講師。北区滝野川小など3校で校長を務め、16年4月から現職。





2019.12.29 河北

小5男子体力最低

スマホ普及運動不足に

全国テスト

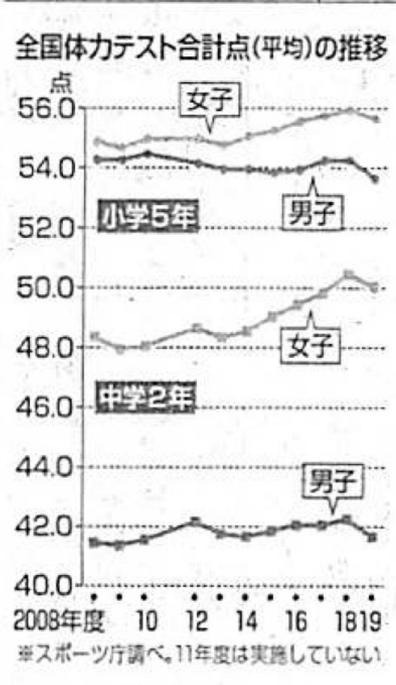
スポーツ庁は23日、小学5年と中学2年を対象に実施した2019年度全国体力テストの結果を公表した。握力や持久走など実技

8種目の合計点平均は、昨年度まで上昇傾向だったが、**小中の男女とも一転して数値を落と**した。小5男子は08年度の調査開始以

降、最低となった。(24・27面に関連記事) **スポーツ庁は要因として、スマートフォン**の普及などに伴い、子どもたちの

運動時間が減少していることなどを挙げた。鈴木大地長官は23日、記者会見で「結果を重く受け止める」と述べ、幼児期からの体力向上を図るための検討会議を立ち上げると表明した。

テストの合計点(80点満点)の平均は、小5男子が53・61点(昨年度54・21点)、女子が55・59点(同55・90点)。中2男子は41・56点(同42・18点)、女子が50・03



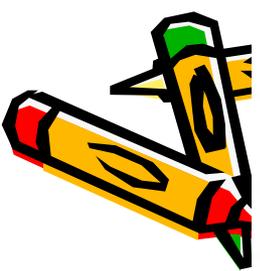
点(同50・43点)だった。女子は小5、中2とも13年度、中2男子は14年度、小5男子も15年度を底に点

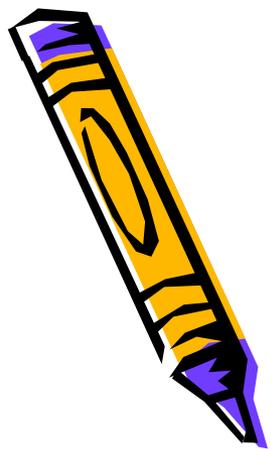
数上昇が続き、昨年度は過去最高の水準だったが、本年度はほとんどの種目が昨年度を下回った。

特に走力の落ち込みが目立ち、50m走では小5男子が0・05秒、小5女子と中2男女が0・03秒、それぞれ遅かった。男子の1・8回、男子の1・8回、持久走(ムは6・運動の間では、

運動をする小5は、男子で51・4%(昨年度54・0%)、女子で30・0%(同30・6%)。中2は男子で82・1%(同83・9%)、女子で60・4%(同61・5%)と、軒並み下落した。一方、テレビやスマホ、ゲーム機で映像を見る時間は増加。平日に2時間以上視聴する小5女子は5割近く、そのほかでは6割前後いた。

体力はなぜ低下？ 原因はスマホ？





視力1.0未満小学生34%

本年度調査 高校生67%、中学生57%

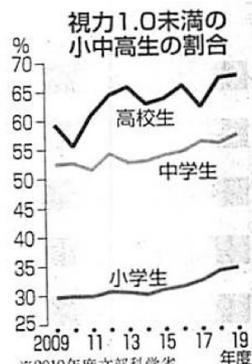
2019.12.21
文科
文部科学省は20日、2019年度学校保健統計調査（速報値）を発表した。裸眼の視力が「1.0未満」の小学生は5年連続の増加で34・57%。中学生の57・47%、高校生の67・64%とともに、いずれも過去最多の割合となった。虫歯の割合については中高生で過去最少となった。

文科省は視力低下について「スマートフォン、タブレット、テレビの普及などで、近くで物を見る時間が増えたり、屋外で遊ぶ機会が減って、あまり遠くを見なくなったりしていることが背景にあるのではないかと推測。視力と生活習慣に関する別の調査について分析を進めており、結果を本年度中に発表する方針。

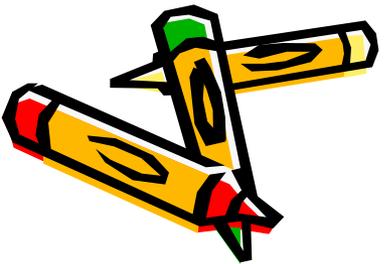
虫歯は治療済みも含めた割合で中学生が34・00%、高校生が43・68%となり、いずれも過去最少。小学生は44・82%。ピークだった1980年度前後は小中高とも90%を超えていたが、減少傾向が続いている。で口腔ケアの意識が高まっていること

視力も低下 原因はスマホ？

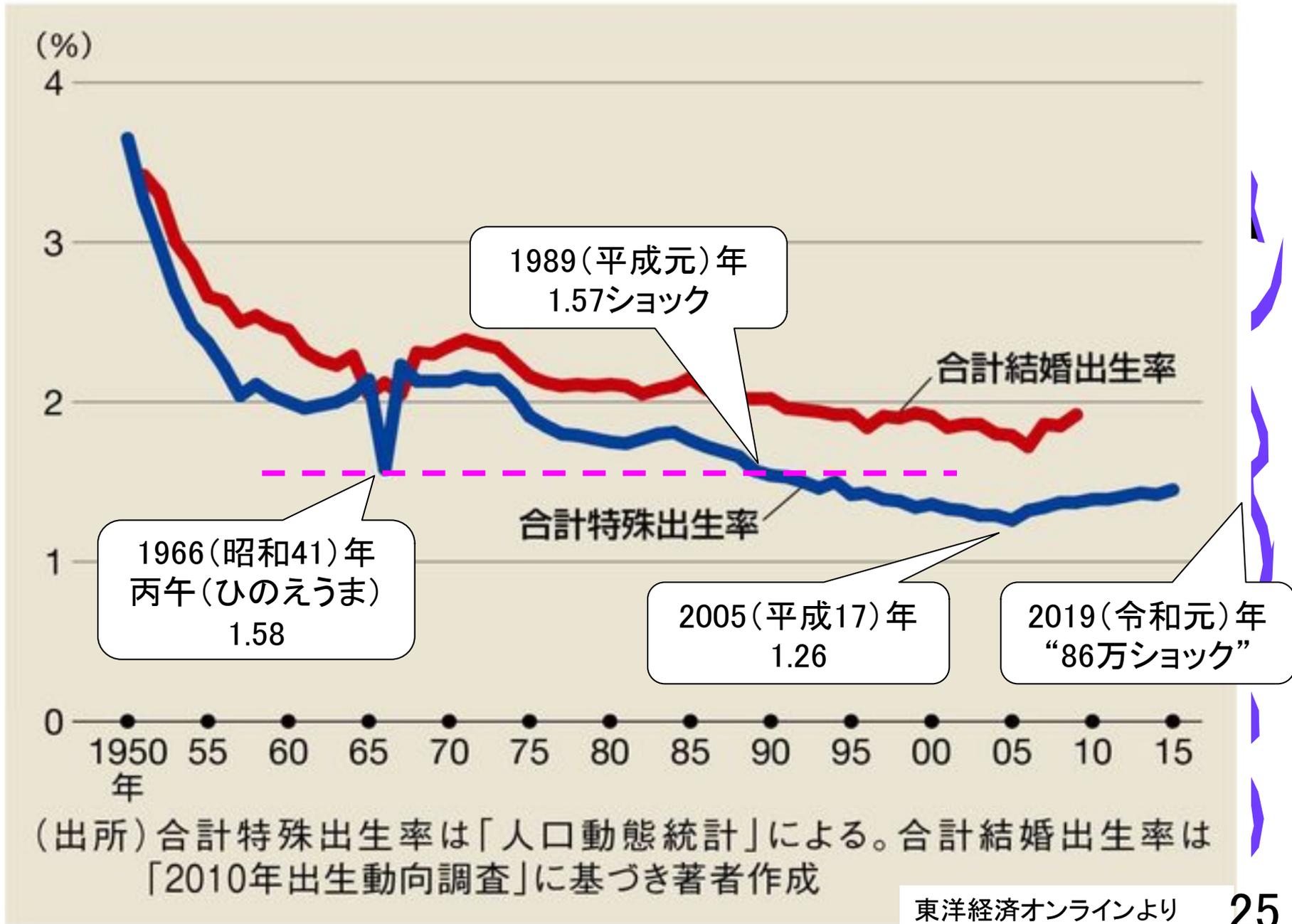
スマホや外遊び減 影響か

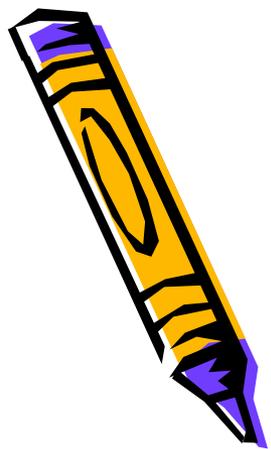


となどが要因とみている。
性別や年齢別、身長別の標準体重から算出して肥満傾向があるとされた子どもの割合を学年別に見ると、男子で最も高かったのは高1の11・72%、女子は小6の8・84%だった。前年度と比べて減少していたのは、高2男子と小1、高1女子だけだった。
鼻・副鼻腔疾患の中学生は12・10%、高校生は9・92%で、これまでで最も多かった。耳疾患の高校生も2・87%と過去最多。文科省は、アレルギー疾患の子どもの割合が増えている影響が考えられるとしている。



■ 合計特殊出生率と合計結婚出生率推移





出生数 87万人割れも

河北 19.12.11

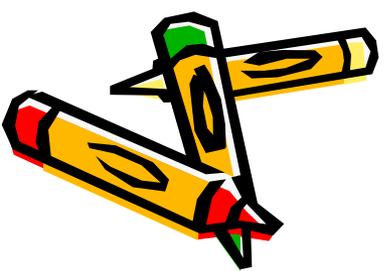
19年 少子化相「深刻な状態」

衛藤晟一少子化対策担当相は10日の閣議後記者会見で、2019年の出生数が87万人を下回る可能性があることを明らかにした。1899年の統計開始から初めて90万人割れで、21年と見込んでいた想定より2年早い。衛藤氏は「深刻な状態として強く認識してい

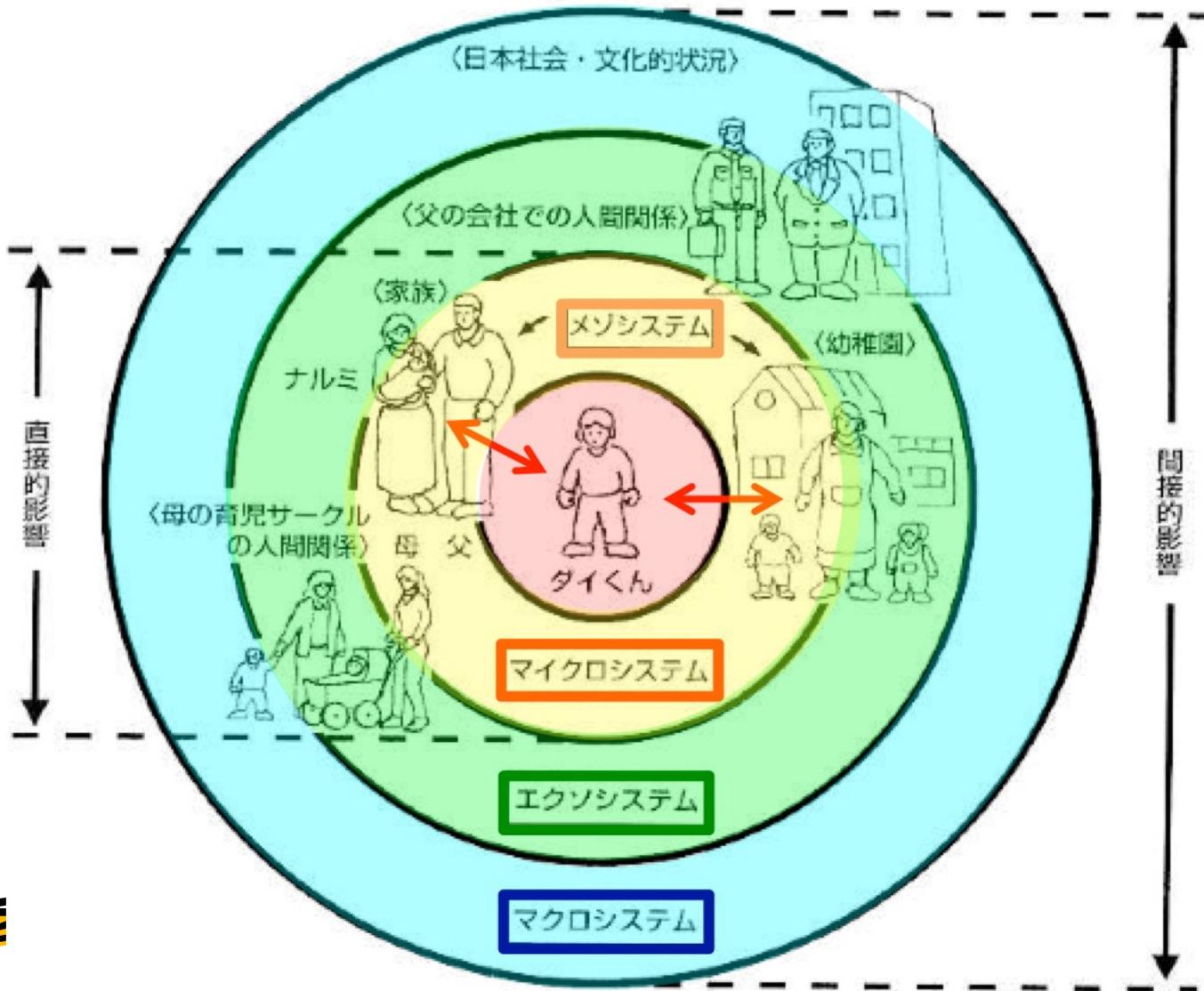
る」と述べた。厚生労働省は出生数や出生率をまとめた「人口動態統計」の年間推計を今月下旬に公表する予定。衛藤氏は「抜本的かつ総合的な少子化対策を推進していかなければいけない」と話した。

国立社会保障・人口問題研究所は17年の推計で、19年の出生数を92万1千人、20年は90万2千人と見込み、21年に大台を割り込み、88万6千人になると想定していた。

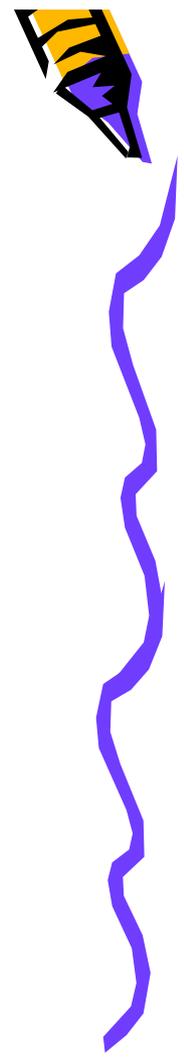
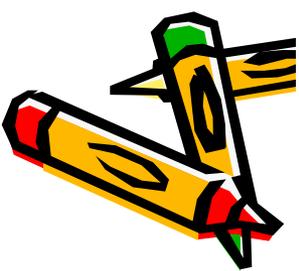
出生数が初めて100万人を割ったのは16年で、97万7242人（確定）だった。



第2節 環境の中の子ども

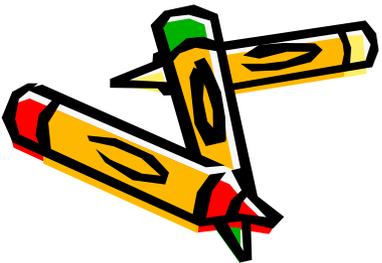


Bronfenbrennerの生態学的環境システムのイメージ



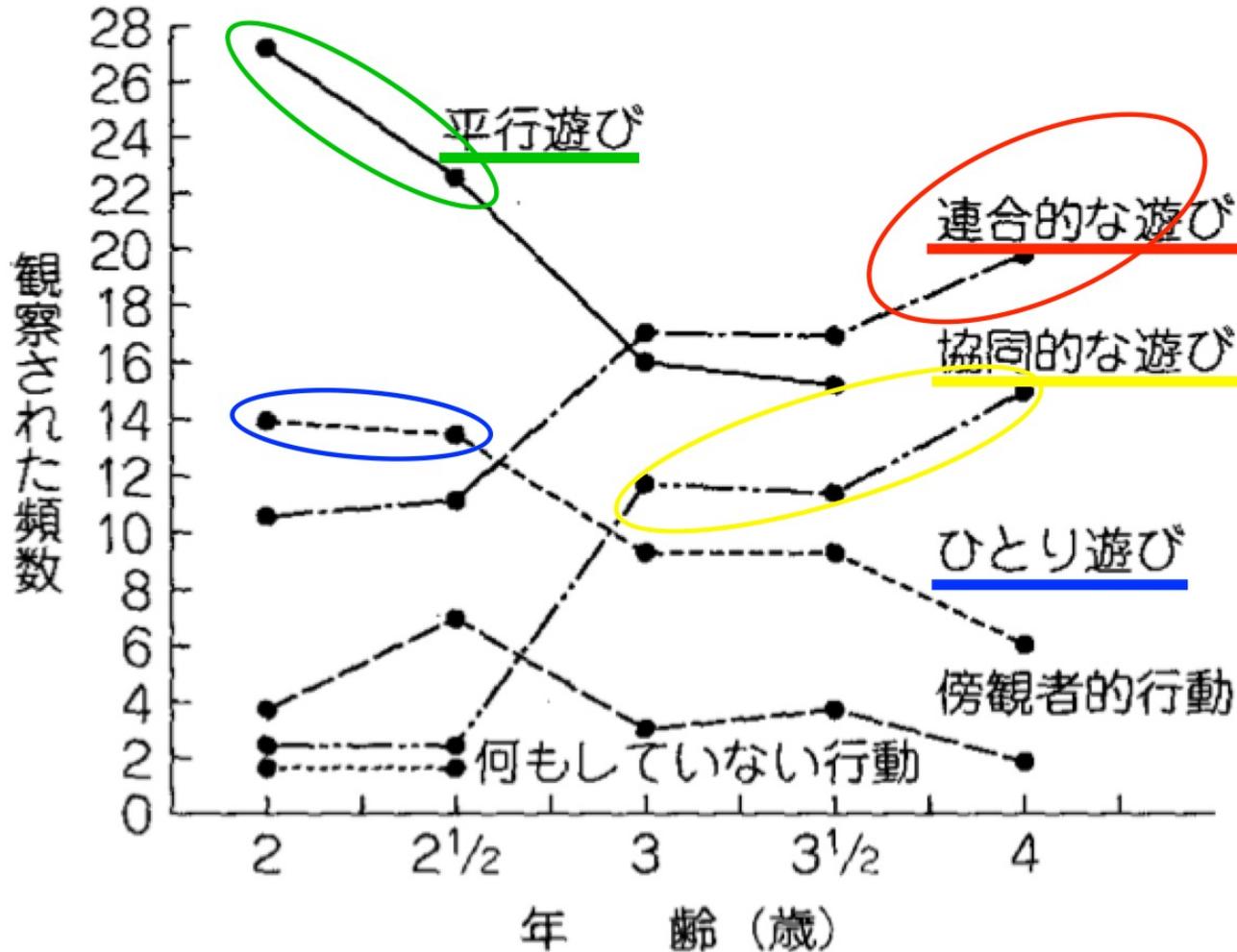
保育の人的環境

- 保育者が「環境」とされるのはなぜか
- 「環境」として、何ができるか・何をすべきか

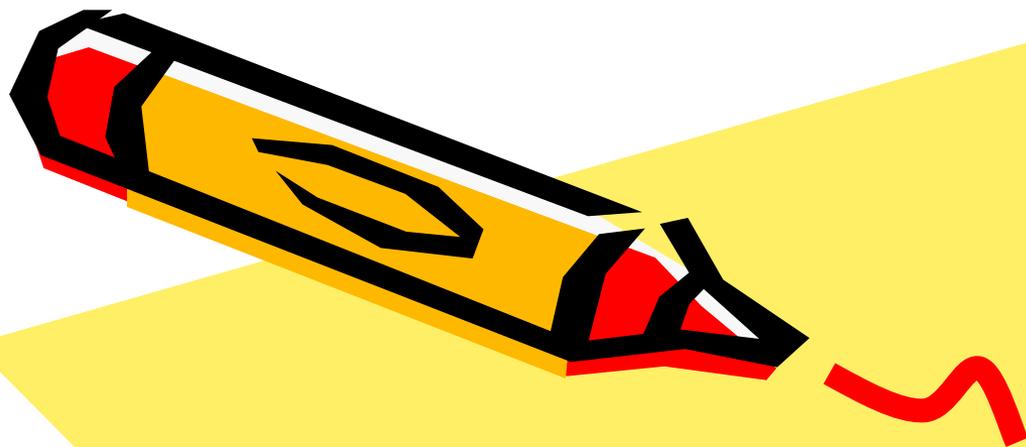


第3節 子ども相互の関わり

遊びの種類の発達 (Parten, 1932より作成)

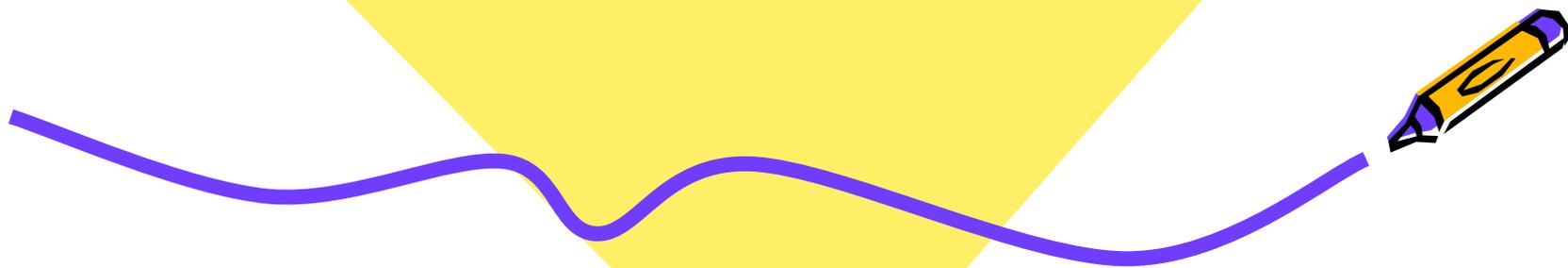


● 「子ども相互の関わり」を促す働きかけ、とは…



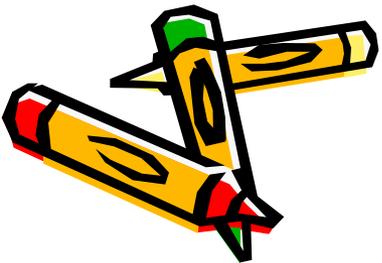
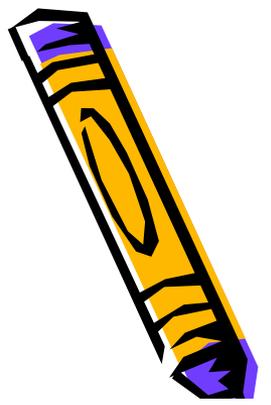
第4章

子どもを理解する視点②



第4章のポイント

- 葛藤やつまずき
- 保育環境の理解と構成
- 環境の変化や移行



第1節 葛藤やつまずき

● ピアジェとヴィゴツキーの考え方の違い



内言
→ 思考の道具

「今・ここ」を離れた言語
今日の給食はなんだろう
休み時間はサッカーをしよう
もし雨が降ったら体育館で遊ぼう
「しあわせ」ってなんだろう



集団の中で見られる独り言
自己中心的言語(ピアジェ)
集団的独語(ヴィゴツキー)



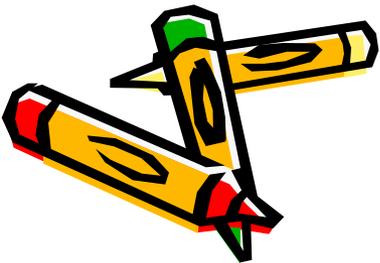
外言
→ 伝達手段

内言 → 外言(ピアジェ)
外言 → 内言(ヴィゴツキー)



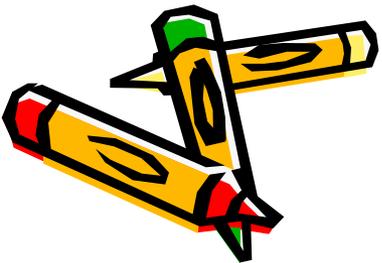
第1節 葛藤やつまずき

- 「役割取得能力」の発達に必要なもの、とは
→ 経験・力・保育者の援助などの視点から



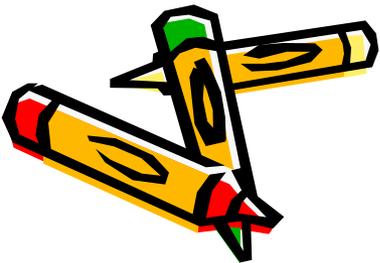
第2節 保育環境の理解と構成

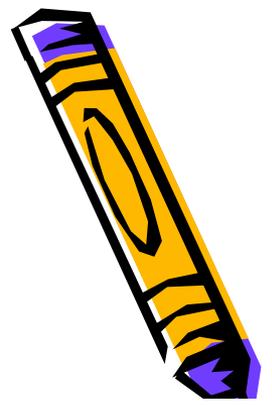
- 「リアル」と「リアルでないもの」の違い
- 「自然」の良さ
- 「命を大切に」、「物を大切に」という気持ちの育ち



第3節 環境の変化や移行

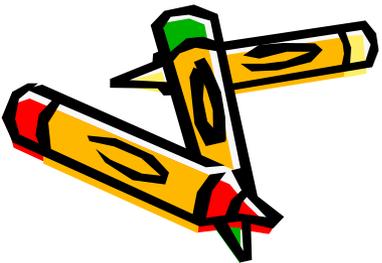
- 「関係」の「広がり」と「深まり」
→ それを支える保育者の役割
移行、新入園児、けんかの仲裁 etc.





次回:10/5(水)

- 第5章:子どもを理解する方法①
- 第6章:子どもを理解する方法②
- 第7章:子どもを理解する方法③
- 第8章:子どもの自己理解を進める技法



ありがとうございました☆